

岡崎城跡菅生川端石垣～整備のあゆみ（H29～R3）

その1：菅生川端石垣の発見

かつては、高さ約1.5mの石垣が草木に覆われながら部分的に確認できるのみであり、「城の石垣」という認識は乏しいものでした。平成27年、乙川リバーフロント地区整備事業に先立ち石垣の下層部の状況を確認するために試掘調査を行ったところ、石垣が地中深くまで続くことが明らかになり、「城の石垣」との認識を新たにしたことから「菅生川端石垣の発見」として大きな注目を集めました。しかしこの時点では依然として石垣の詳細（規模や全長等）については不明なままでした。

その2：発掘調査による石垣の詳細調査結果

平成28年度に発掘調査により石垣の詳細な調査を行いました。その結果、以下のことがわかりました。

- ①石垣の高さが5.4mであること。
- ②石垣の両端部を確認し、その全長が約400mにも及ぶこと。
- ③絵図のとおり、三箇所突出部（枡形）が設けられていること。

これらの成果を受け、『岡崎城跡整備基本計画－平成28年度改訂版－』に基づき整備していくことになりました。

岡崎城跡において整備計画に基づく初めての本格的な整備であり、石垣解体修理工事自体も初めての実施となりました。

その3：整備の経過

【平成29年度】：基本設計

【平成30年度】：実施設計

【令和元年度】：整備工事（環境整備）

- ・上流部の石垣に見学用園路を設置。
- ・中央枡形の石垣毀損木（クスノキ）の伐採。

【令和2年度】：整備工事（石垣修理）

- ・中央枡形の石垣を解体・積み直しによる修理工事。

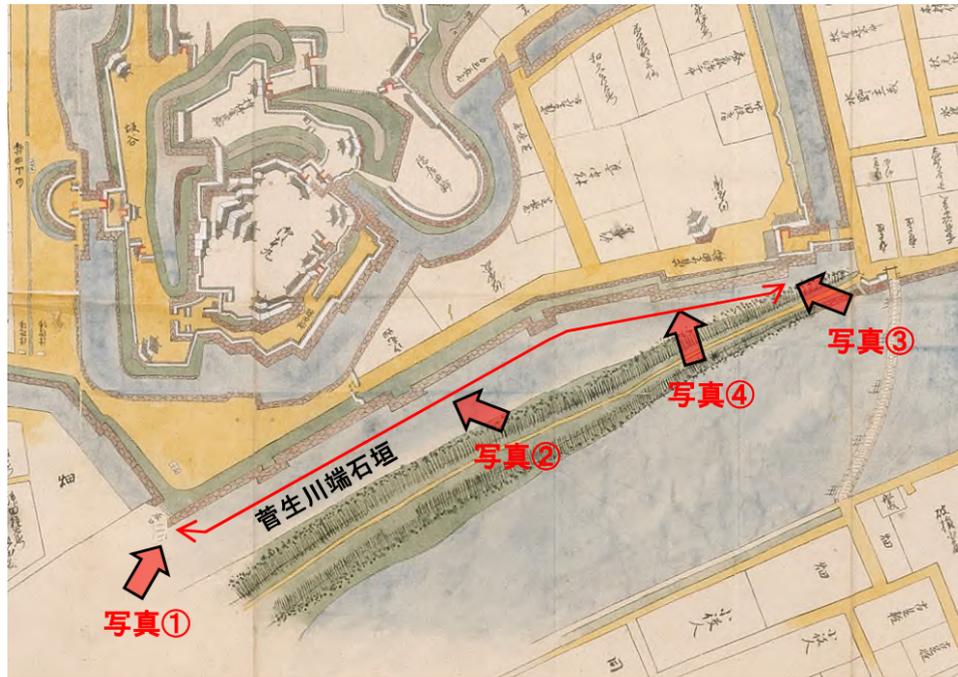
【令和3年度】整備工事（石垣修理、石垣顕在化）

- ・西枡形の石垣を解体・積み直しによる修理工事。
- ・東枡形の埋没した石垣の顕在化。



R3年度 石垣修理工事（西枡形）

岡崎城跡菅生川端石垣～これまでの発掘調査からわかったこと～



☆いつ造られた石垣なのか？
 ★発掘調査成果からみると...
 ・石垣の下部が構築当初の石垣であり、上部は構築後に何度も補修(積み直し)が行われています。
 ・石垣の構築は1600年代前半と推定されます。(岡崎城内の他の石垣と比較した結果)
 文献史料には藩主本多忠利(在職1623-1645)による築造記事があり、これとも整合します。

☆なぜ造られたのか？
 ★文献史料+発掘調査成果からみると...
 ・近世城郭として石垣による城壁の堅牢化・視覚効果の向上を目的としたと考えられます。
 ・籠崎堤の築堤と合わせて菅生川の水防(治水)機能の役割も担うものであったと想定されます。

☆どれほどの規模の石垣なのか？
 ★発掘調査成果からみると...
 ・総延長約400m、高さ5.4mにも及ぶ長大な石垣であることがわかりました。
 ・一連の石垣に3箇所の桁形(突出部)が設けられた珍しい構造であることがわかりました。



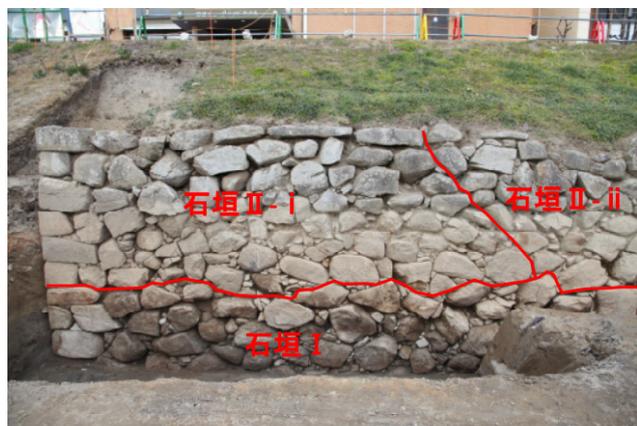
写真① 西端部の石垣



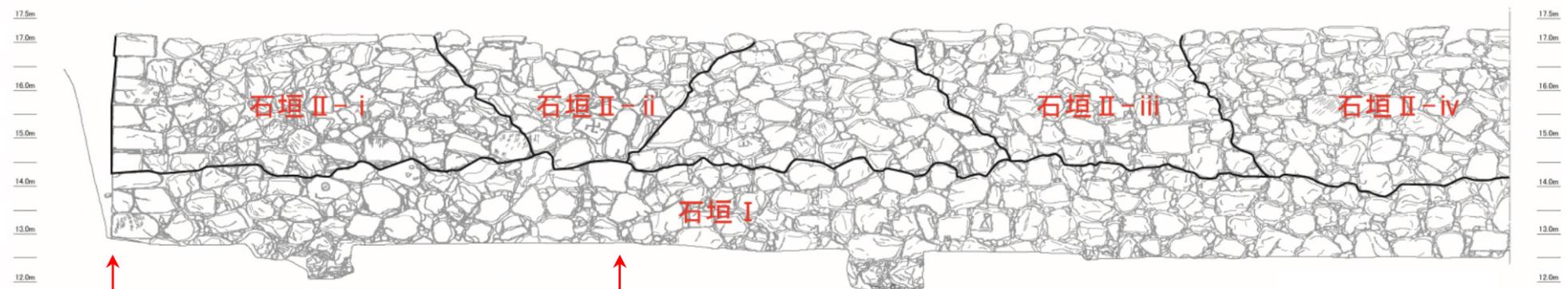
写真② 中央部の桁形(突出部)の石垣



写真③ 東端部の石垣



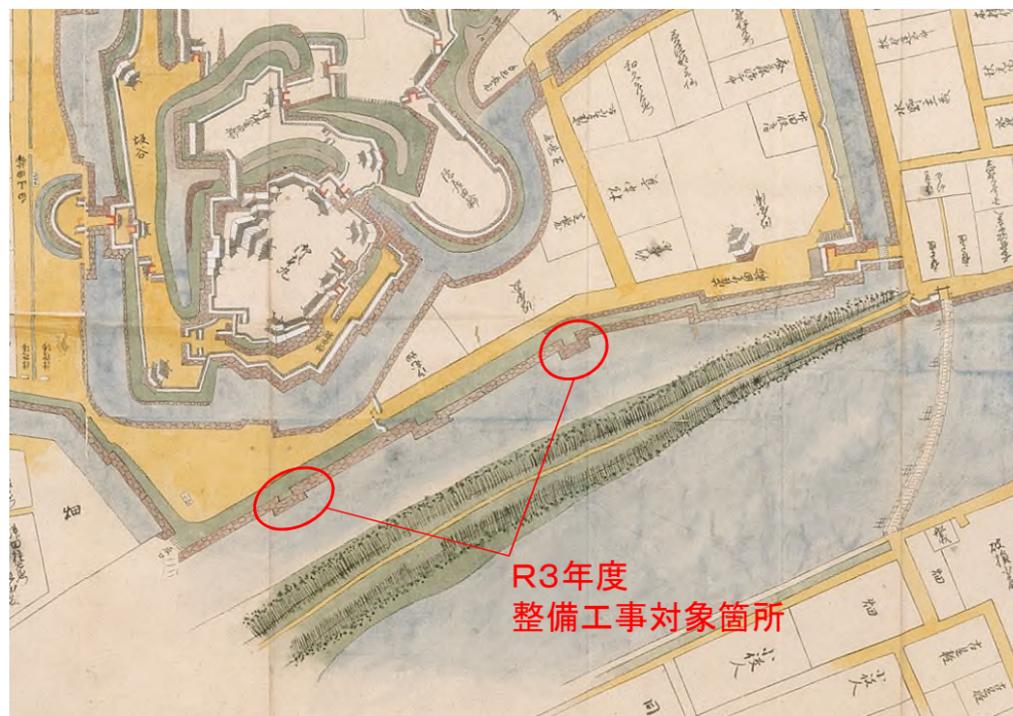
写真④ 石垣の補修(積み直し)箇所



写真④の範囲

石垣立面図(補修箇所ライン明示)

岡崎城跡菅生川端石垣～整備工事の経過～



☆整備工事(R1年度実施)

- ★石垣上流部(ニューグランドホテル南)において高さ約2m、延長約60mにわたり良好に残存する石垣を間近で見られるように園路を設置しました。
- ★3箇所ある枡形のうち、最も規模の大きな中央部の枡形周辺について既設階段と現代に積み重ねられた石積みを撤去したところ、菅生川端石垣が残存していたことから石垣がみえるように整備を行いました。
- ★中央枡形の石垣から生育した樹木の伐採を行いました。

☆整備工事(R2年度実施)

- ★R1年度実施の整備工事に引き続き、中央枡形の整備を行いました。
- 石垣から生育した樹木の影響を受けている部分について、石垣を解体し樹根を除去した後に石垣を積み直す工事を行いました。

☆整備工事(R3年度実施)

- ★西枡形・東枡形の整備を行いました。
- [西枡形] 事前の発掘調査をおこない、近代の擬木階段設置により毀損した石垣について新石材で補いつつ石垣を積み直す工事を行いました。
- [東枡形] 堤防法面に埋没した石垣の天端石を露出させ、枡形の形状を顕在化する工事を行いました。

[R1年度整備]



[R2年度整備]



[R3年度整備]



H29年度基本設計
H30年度実施設計

R1年度整備工事
(環境整備・園路整備)

R2年度整備工事
(中央枡形整備)

R3年度整備工事
(西・東枡形整備)

H27・28年度発掘調査

岡崎城跡菅生川端石垣～R2年度整備工事の経過～

☆整備工事概要

★契約金額:20,097,000円

請負業者:大金建設株式会社

工期:令和2年12月24日～令和3年3月25日

工事概要:石垣延長約15m、石垣取り外し工16㎡、石積工(取り外し石)16㎡、石積工(新石)2.4㎡、間詰石補充工28㎡



R3.1 着手前



R3.2.1 墨打ち



R3.2.4 樹木伐採



樹木内部にて石垣石材を確認



R3.2.18 樹木除根、石垣解体完了



R3.2.18～ 石垣積み直し作業



R3.2.18～ 間詰め石補充作業



R3.3.19 工事完成

岡崎城跡菅生川端石垣～R3年度整備工事の経過①～

☆整備工事概要

★契約金額:24,933,700円

請負業者:株式会社シビルワークス

工期:令和3年12月23日～令和4年3月25日

工事概要:[西柵形] 石垣解体修理延長約14m、石垣取外し工3㎡、石積工(取外し石)3㎡、石積工(新石)12㎡、間詰石補充工44㎡(石垣延長約40m)

[東柵形] 法面整形22㎡、石積工(新石)1㎡、石垣検出約6m

[西柵形整備経過]

整備に先立ち、石垣の毀損状況を調べるために発掘調査を実施しました。発掘調査では、柵形の両隅部の石垣石材が欠失していましたが、下層部深くまでは及んでいないことが分かりました。整備では欠失部を新石材で積み直した他、ずれた石材の取外し、積み直しを行いました。また、間詰石の補充を行いました。



R3.11 着手前



R3.12.24 発掘調査完了



R4.2.9～ 石材の取外し(保管状況)



R4.2.12～ 新石材の加工



R4.2.14～ 積み直し作業



R3.2.16～ 裏込め石充填作業



R4.2.21～ 間詰め石補充作業



R4.3.17 工事完成

岡崎城跡菅生川端石垣～R3年度整備工事の経過②～

[東柵形整備経過]

東柵形の内、東側の石垣は乙川リバーフロント地区整備事業により堤防法面に埋没していましたが、今回の整備工事により再び石垣列を顕在化することを目的としました。検出された石垣は天端付近の石材が欠失していたため、新石材による積み直しを行い、園路の高さまで埋戻しを行いました。これにより東柵形の形状が明確になりました。



R3.11 着手前

R4.3.3 石垣検出作業

R4.3.3 石積工

R4.3.11 完了(埋戻し・法面整形)

菅生川端石垣全景



※赤線：現在見ることのできる石垣／赤破線：埋没石垣